

令和5年度(2023年度)

研究紀要

第35号

特別支援学校における経験の浅い教員の

資質能力の育成に向けた研究

～学校における人材育成の取組を支えるために～

北海道立特別支援教育センター

Hokkaido Special Needs Education Center

ま え が き

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会は、令和3年11月に「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」審議まとめにおいて、「『令和の日本型学校教育』を実現する上でふさわしい高い資質能力を教師が身に付けることが重要である」とした上で、教師の学びに求められる要素や学びの環境自体も大きく変化していることを示しています。

教師の資質能力の向上に向け、国においては、法改正により教員免許状の更新制度が廃止となり、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドラインの策定が行われました。本ガイドラインでは、任命権者である教育委員会において、「新たな教師の学びの姿」の実現に向け、体系的・計画的で持続的な資質向上の推進体制を整備するとともに、研修内容の重点化や精選なども含め、効果的・効率的な研修実施体制を整えることが求められています。

これら国の動向を踏まえ、本道では、特別支援教育に関する基本方針が策定され、特別支援教育の質の向上に向けて、教員研修の状況等に関する課題を整理し、今後の方向性を示すとともに北海道教育委員会や学校等主な実施主体を明確にして研修の推進に向けた施策を示しています。

このような中、学校現場においては、多様化する教育課題に加えて教員採用選考の倍率低下や教員不足、学校組織の年齢構成等の不均衡等による経験豊富な教員等から若手教員への知識技能等の伝承が困難な状況が見られており、様々な学校状況や課題を抱える中で創意を凝らしながら若手教員を養成することが求められている状況があります。本道の特別支援学校においても児童生徒の障がいが重度・重複化、多様化する中で、障がいの種類や状態に対応した指導を充実させるべく、特別支援教育を担う教員の育成を図ることの重要性は、皆様も御存知のことと思います。

本研究では、道内特別支援学校の人材育成、研修における現状と課題を把握し、それを踏まえた研修プログラムの作成を通して、学校の取組を支え、本道の特別支援教育の質の向上に資することを目的に取り組みました。

本研究成果を各学校の実践や研究・研修活動に御活用いただき、その成果や本研究への忌憚なき御意見をお寄せいただければ幸いに存じます。また、来年度は、本研究成果を活用して道内の特別支援学校と連携しながら引き続き有効性の検証、修正・改善を行っていきますので御協力願います。

最後に、本研究の推進に当たり御助言・御協力をいただきました、研究協力校及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、発行に当たっての御挨拶といたします。

令和6年（2024年）3月

北海道立特別支援教育センター所長 今 井 章 文

「特別支援教育の充実・発展に関する研究」

**「特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた研究
～学校における人材育成の取組を支えるために～」**

深町 友祐* 日小田 泰昭** 宮町 悦信* 荒井 美聡**

本研究の概要	1
I 研究の背景	2
1 教員の資質向上に係る現状と国の動向	2
2 本道における教員の資質向上に係る現状と課題	2
3 道内特別支援学校における教員の資質向上に係る現状と課題	3
II 研究の目的と方法	4
1 本研究の目的	4
2 研究の方法	4
III 研究の内容	5
1 アンケート調査の実施	5
2 研究協力校との取組	14
3 プログラム作成に向けたアンケートと研究協力校との取組における考察	15
4 プログラムの作成及び活用に向け重視すべきポイント	21
5 「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）」について	21
IV 研究のまとめ	25
1 研究の成果	25
2 今後の課題	25
3 今後の取組の展望	25
外部研究協力者	26
参考文献	27
資料	
各学校で行う初任段階教員研修についてのアンケートの調査用紙	28
初任段階教員（1年次）	29
初任段階教員（2年次）	32
実際に指導に当たっている教諭	36
初任段階教員研修を担当している担当部署	38

別冊 特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）

* 聴覚・言語障がい教育室

** 自閉症・情緒障がい教育室

本研究の概要

研究テーマの設定

国は「新たな教師の学びの姿」の実現に向け、教師に共通的に求められる資質と能力を整理して示すとともに、関係法令を整備するなどの施策を講じてきた。本道においても「北海道における教員育成指標」を改訂し、教員の資質向上を目指して、北海道教育委員会計画研修を実施しているだけでなく、各学校が様々な工夫を凝らしながら学校計画研修を進めている状況がある。

しかし、特別支援教育を担う教師には、全ての教師に共通して求められる基本的な知識技能を上回る専門性が求められており、特別支援学校が校内で経験の浅い教員を育成することにおいては、各学校での着実な研修の実行と充実に向けた組織的対応が必要である。

本研究では、経験の浅い教員の育成を学校に委せるだけでなく、北海道立特別支援教育センター（以下、特セン）が学校と連携・協力して取組を支えることで、特別支援教育を担う経験の浅い教員の研修、学びを深め、特別支援教育の質の向上を目指すことを目的として本研究テーマを設定した。

研究の目的

本道の特別支援学校における経験の浅い教員を対象とした校内研修に係る現状と課題を把握し、研修の効果を高めるための「特別支援学校教員スタート・プログラム」を作成し、普及を図ることで各学校の取組を支え、初任段階教員の資質能力と特別支援教育の質の向上を目指す。

研究の方法及び内容

- ・道内特別支援学校（初任段階教員 1、2 年次在籍校）へのアンケート調査を行う。
- ・研究協力校においてプログラムを試行的に活用するとともに、プログラム、学校計画研修に関する意見の聞き取りを行う。
- ・アンケート調査等で得られた知見を、学校計画研修の中で活用できるようプログラムとして取りまとめ、普及・活用を図る。

研究の成果と今後の課題

1 成果

- ・アンケート調査の実施、研究協力校との取組を通して、当事者が研修について感じていることや各学校における校内研修に係る現状と課題を把握することができた。
- ・初任段階教員研修（学校計画研修）の内容と関連付けることで、各学校が学校計画研修において実際に活用しやすいプログラムにすることができた。
- ・内容の精選に加え、研修の方法や効果を高めるための工夫を取り入れたプログラムを作成することができた。

2 今後の課題

- ・本研究の成果として作成した「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）」の活用を推進し、各学校における校内研修の充実を図る必要がある。
- ・プログラムの特別支援学校における活用の有効性を検証するとともに、次期学習指導要領改訂まで継続して活用できるよう、プログラムの修正や改善を図る必要がある。